

第12 選択地区教科用図書調査研究専門員による調査研究の結果報告

種目（教科等）【音楽（器楽）】

書名 項目	中学器楽 音楽のおくりもの		17 教出
内容	〈生徒が「必要感」・「思考の深まり」・「達成感」を味わうことができる工夫がされているか〉		
	○「必要感」 ・学びたくなるめあての 掲示の工夫 ・課題解決に向けた「見 通し」の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭ページには、演奏家が楽器を演奏する様子やストリートピアノの鮮やかな写真が掲載されている。 ・7種類の各楽器のめあてを黄色の枠で統一して示し、習得すべき奏法が明確に示している。 ・楽器の奏者からのメッセージを掲載し、生徒が興味を持ち主体的に取り組むことができる工夫がされている。 	
	○「思考の深まり」 ・生徒自身の思考を広げ 深める工夫 ・学び合いの視点	<ul style="list-style-type: none"> ・アルトリコーダー、ソプラノリコーダーの楽譜が併記されていたり、合奏できる曲が掲載されていたりしている。また運指も両端に併記され確認できるよう工夫されている。 ・箏の「音のスケッチ」では、創作と関連させ、楽器の特徴を深く味わうことができる工夫をしている。 ・「+深めてみよう」で、鑑賞教材「六段の調」の奏法を掲載し、実際に演奏できる内容を掲載している。 ・「表現の仕方を調べてみよう」と発展「〇〇の楽器の仲間達」では、楽器の共通点や相違点を考え、楽器の特徴を話し合うことができるよう工夫している。 	
	○「達成感」 ・単元や題材など内容や 時間のまとまりを見通 した単元計画の工夫 ・学んだことを理解確認 する「まとめ」の工夫 ・学んだことを生かし、 生活を豊かにする態度 に繋がる工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・リコーダーでは「タンギング」「左手で吹こう①②」のように、細かく目標が設定されていて、達成感を感じることができる工夫がされている。 ・楽器ごとに「まとめの曲」が掲載されており、段階的に習得した技能を表現に生かすことができるよう工夫されている。 ・「合わせて演奏しよう」では、様々な楽器で多様な音楽表現ができるよう工夫されている。 ・「Let's Play」や「Let's Try」では、「さざえさん」「カントリーロード」等、生徒が親しみを持ちやすい楽曲が掲載されている。 	
	〈教科等横断的な視点を取り入れた工夫がなされているか〉		
○「教科横断的な視点」 ・言語活動 ・情報活用能力 ・問題発見・解決能力の 視点	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsの視点を取り入れていて、様々な楽器の写真を掲載している。 ・「弾く楽器の仲間たち」では、人や物の移動、楽器の材質、生活様式について触れ、「吹く楽器の仲間たち」では、楽器の背景にある文化や伝統について触れ、社会との関連を図っている。 		
その他	<p>〈資料の構成・配列や表記・表現〉</p> <p>○生徒が学びたくなる資料（挿絵・写真・図表等）の工夫が見られるか。 ・巻頭に10枚の写真を掲載し、生徒が音楽文化と豊かに関わるための工夫がされている。</p> <p>○教材や内容の文章表現の難易度について、生徒の発達の段階からどのような工夫が見られるか。 ・リコーダーでは、17の曲と活動のポイントが示されていて、段階的に取組む工夫がされている。</p>		

第12 選択地区教科用図書調査研究専門員による調査研究の結果報告

種目（教科等）【音楽（器楽）】

書名 項目	中学生の器楽		27 教 芸
内容	〈生徒が「必要感」・「思考の深まり」・「達成感」を味わうことができる工夫がされているか〉		
	○「必要感」 ・学びたくなるめあての 掲示の工夫 ・課題解決に向けた「見 通し」の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器の「演奏を聴こう、知ろう」が初めに示され、奏法の図や写真の掲載により、表現を工夫するための見通しがもてるようになっている。 ・「アンサンブルセミナー」では、めあてと音楽を形づくっている要素が記載されていて、生徒の理解を助ける工夫がされている。 ・演奏家のメッセージが記載され、二次元コードで楽器紹介などを読み取り主体的に学ぶことができる工夫がされている。 	
	○「思考の深まり」 ・生徒自身の思考を広げ 深める工夫 ・学び合いの視点	<ul style="list-style-type: none"> ・アルトリコーダーとソプラノリコーダーの楽譜が併記されていて、小学校での学びを活用できる工夫がされている。 ・リコーダーでは、LESSON ごとに技能を習得し演奏を楽しむ工夫がされている。「笑点のテーマ」等8曲のアンサンブル曲や「楽器でMelody」を掲載し、発展的に学習できるように工夫されている。 ・箏では鑑賞教材「六段の調」の一部を演奏する活動を掲載し、楽器の特徴を捉える工夫をしている。また、「マイメロディ」で箏の音階をいかした創作により楽器の個性と日本の音階を味わうことができる工夫がされている。 ・「学びのコンパス」では、活動のヒントがイラストで示され、音楽的な見方・考え方を働かせて、より深い学びができる工夫がされている。 	
	○「達成感」 ・単元や題材など内容や 時間のまとまりを見通 した単元計画の工夫 ・学んだことを理解確認 する「まとめ」の工夫 ・学んだことを生かし、 生活を豊かにする態度 に繋がる工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・「日本の伝統音楽の楽器編成」では、三味線や長唄、義太夫節などの写真を掲載し、鑑賞教材と関連して学習できる工夫がされている。 ・二次元コードにより伴奏の音源を聴くことができ、伴奏とともに楽器演奏することで、音が合わさる喜びを味わうことができる工夫がされている。 ・3年間で学ぶ内容が、わかるように示されている。 ・巻末の「楽しもう和楽器の音楽」では中学生の部活動を紹介し、生徒が生活や社会の中の音楽との関わりに目を向け考えられるよう工夫されている。 	
	〈教科等横断的な視点を取り入れた工夫がなされているか〉		
○「教科横断的な視点」 ・言語活動 ・情報活用能力 ・問題発見・解決能力の 視点	<ul style="list-style-type: none"> ・箏では「姿勢と礼儀」で、楽器演奏だけでなく日本の伝統文化について掲載されている。 ・和楽器を用いたアンサンブルや、箏の「少年時代」「夏祭り」などの生徒が親しめる楽曲が掲載されており、我が国の伝統音楽のよさを味わい、愛着をもつことができるよう工夫されている。 		
その他	<p>〈資料の構成・配列や表記・表現〉</p> <p>○生徒が学びたくなる資料（挿絵・写真・図表等）の工夫が見られるか。 <ul style="list-style-type: none"> ・バンドスコアや「伝統の枠を超えて活躍する和楽器」を大きな写真で掲載しており、生徒の興味・関心を引き出す工夫がされている。 </p> <p>○教材や内容の文章表現の難易度について、生徒の発達の段階からどのような工夫が見られるか。 <ul style="list-style-type: none"> ・リコーダーのタンギングやアーティキュレーションの説明では、図形等で示し、音や演奏のイメージがもてるように工夫されている。 </p>		